



## 難病支援活動情報交換会に出席

～CTF 松阪の活動状況を報告～

3月9日(木)三重県松阪地方県民局保健福祉部において、難病支援活動に関する情報交換会が開催されました。

これは、松阪保健所の難病対策と障害者のIT支援ボランティア組織 CTF 松阪の協働が興味深いと岩手県立大学の先生が視察団を組んで来る来県されたのです。

せっかくなので岩手県と三重県の情報交換会として、それぞれの現場における取り組みを発表し、和気あいあいと、意見交換を行いました。

当日は、両保健所職員のほか、岩手県立看護大学の先生、患者会等の関係者が出席し、CTF 松阪からは川口会長はじめ4名が出席しました。

岩手県の方より「なぜみんなこんなに元気なの?」という質問が出され「公務員と住民とか支援者と当事者とか立場を超えてつきあっていくこと、そして同じ夢や目標に向かっていくことが大切かな。そして何よりも楽しいことかな。」また「男性ボランティアさんがなかなか現れてくれない。」という言葉に

CTF 松阪より「自分の得意な分野のボランティア活動だったら参加しやすいよ。」という意見がだされました。

仲間と出会い、やりたいことをやり、楽しみ、そして喜んでもらえる……。改めてCTF 松阪の活動はすばらしいと感じ入っていました。

今度はITを活用して岩手県と三重県の難病患者さんの交流会ができればいいなあと夢は広がっていきました。(文責 野村由里子)



(上の写真は情報交換会の様子)



## もう一つのお水取り

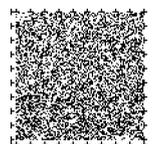
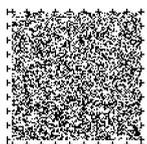


お正月・節分・立春・初牛・奈良のお水取りと季節が進んで今や桜の蕾も綻びかけています。

少し前の話ですが、夢現(むげん)会社さんの仕事で飯南に写真を撮りに行った時のことです。何かの都合で奈良のお水取りの話で盛り上がっていました。それを現地の方が聞いて、「あんたらもう一つのお水取りの話知ってるか?」と話の環に入ってきました。「知らん!」と云うと次の様な話をしてくれました。

『この先飯高に赤桶と書いて「あこう」と読む所に水屋神社と云うお宮さんの鬮伽桶(あかおけ)の井から神水を汲んで赤く塗った桶2振りを春日大社にお水送りしとったんやて……。それも戦乱で途切れとったんを平成14年から鬮伽桶の井の神水を春日大社への奉納がなんと425年ぶりに復活したんですよ。』

皆様「東大寺二月堂のお水取り」で汲み上げられる「若狭井のお香水」は若狭の神宮寺の鬮伽井の水が送られているのだそうですが、飯高赤桶から春日大社に神水を奉納して居たってご存知でした……。??。(参)



今月号は文字数が多いので、1ページと2ページ、4ページにSPコードをそれぞれ2個ずつ付けてあります。1ページと2ページ、4ページでは、先に左下のSPコードを、次に右下のSPコードを読んでください。

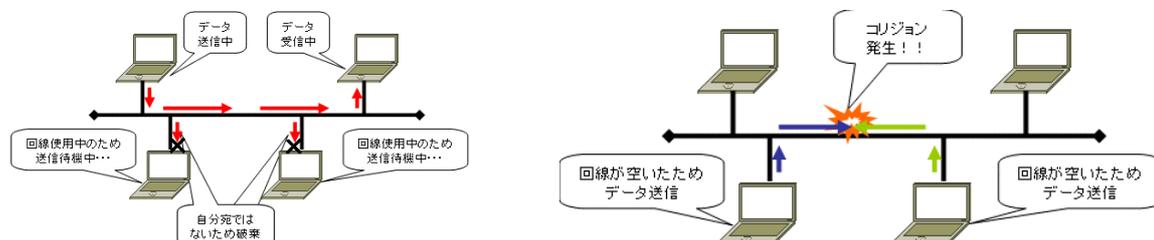


## CSMA/CD (Carrier Sense Multiple Access with Collision Detection)

: キャリアを検知して見つからなければ送信を開始し、尚かつ送信中に衝突が無いかを監視する方式

CSMA/CD 方式は、イーサネットで使用されているとても重要な技術です。イーサネット上のノード(パソコン等)は自身が通信を開始する前に伝送路に他のノードが通信(物理的には一定長の電気信号のこと)を行っていないかを確認します。伝送路に通信が流れていなければデータを送信します。もし他のノードの通信があった場合は通信が終わるのを待ってからランダムな待機時間後に送信を行います。

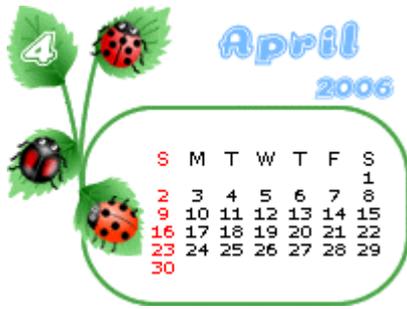
イーサネットの伝送路に繋がっている全てのパソコンは、データが伝送路上に流れてくると自分宛のデータかどうかチェックして、自分宛のデータだけを取り込み、それ以外は捨てます。物理的にケーブルはネットワーク全体で考えると距離(長さ)がありますのでタイミングによっては複数のノードが同時に通信を行ってしまう場合もあります。その場合、伝送路内で通信(電気信号)の衝突(コリジョン)が発生し、そのデータは破壊されてしまいます。コリジョンが発生するとケーブル内の電圧が上がりケーブルにそって電気信号が戻ってきます(これをジャム信号と呼ぶ)。イーサネット上の各ノードがそのジャム信号を検知したらデータを送信するのをやめます。そのあとお互いが同時にデータを送信するとまた衝突が起きてしまうので、伝送路が空くのを待ってからランダムな待機時間後に再度送信します。再送の回数は最大で 16 回と決められており、16 回で通信に成功しないと、通信失敗として OS 側へ通知されることになります。このようにして一本の伝送路を多数のノードが共有している場合でも宛先へデータを送ることが可能なのです。



この方式はイーサネットが規格化されて今日まで約 20 年使われてきています。しかし近年、通信速度の高速化とセグメントごとのノードの増加に伴い、イーサネットで使用されてきた CSMA/CD 方式での衝突の検知では対応できなくなってきており全二重通信が主流になってきています。

つづく





活動報告

活動予定

【3月】

- 障害者対象個人向けパソコン講座  
(7日、14日、28日)
- 障害者宅訪問 IT サポート  
(4日)
- 難病支援活動情報交換会出席  
(9日)

【4月】

- 障害者対象個人向けパソコン講座  
4日、11日、18日、25日  
各 9:30~11:30  
松阪市障害者福祉センターにて
- 第 19 回理事会  
22日 13:30~16:30  
松阪市障害者福祉センターにて



平成 18 年度通常総会開催について

CTF 松阪平成 18 年度通常総会を 5 月に開催する予定です。  
会員の皆様には、日程・会場など詳細につきまして、後日ご案内いたしますので、せいぜいご出席くださいますようお願い申し上げます。

季節の花・サクラ



見渡せば 春日の野辺に 霞立ち

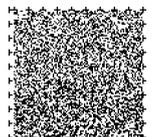
咲きにほへるは 桜花かも

(万葉集巻 10-1872)

見渡すと、春日の野辺には霞が立ちのぼっている。

咲き輝いているのは桜の花だろうか・・・

万葉歌に登場する桜の種類は「山桜」です。いま桜の名所の主役となっているのは「染井吉野」で、これは江戸時代末期に染井村（東京）の植木屋により作り出された品種で、葉が出る前に花が多数咲き豪華に見えることから、たちまち全国に広まったと言われています。



### 出会い、そして飛躍 (3)

野村由里子

障害者への支援について考える。

私は保健師という職業柄、困った人にはなんとか支援してあげたいと思ってきた。しかしこの支援する人、される人という関係の中からは一時的な感謝の気持ちは生まれるかもしれないが、人として生きるパワーはあまり湧き出てこないような気がする。人は支援されるより、するほうに喜びを感じるのではないかと思う。自分が人の役に立った時、自分の存在価値が高まり、パワーが生まれてくるのだと感じる。どんな人でも人の役に立つことはできる。例えば寝たきりになって介護を受けている方からは、快適な介護のあり方を教えてもらえる。それを他の人のために利用できれば、立派に他の人の役に立っている。

Iさんとの出会いで最初は支援される人とする人という関係だったかもしれない。でもいつの間にかそんな関係は吹っ飛んで、泣き言をいう私を叱咤激励し、私の人使いの荒さに辟易しながら一緒に取り組んでくれた、同志であり恩師である。

私はまた新たな夢に向かって歩き出している。

私のまわりにいる人々をこき使い、躍らせて、私もまたその人々に踊らされている。まあそれが楽しいのだから仕方がない。みんなに「無理せんといてな。倒れやんといて。」と言いながら・・・。

やはりこの極悪保健師はしばらくやめられそうにない。

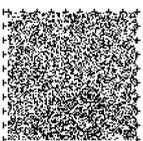
おわり



#### 編集後記

今年は桜の開花が早く、この通信が届く頃には桜の花も散っているのではないかと思います。

桜の花は散っても、私達の気持ちはいつもピンクです、皆様も、ピンクで頑張ってくださいね。



#### CTF 通信第37号

2006年(平成18年)4月発行  
発行者 ITを活用した障害者支援NPO法人  
CTF 松阪  
発行責任者 川口保美  
住所 〒515-0081 松阪市本町2181-1  
電話 0598-21-7268  
URL <http://www.geocities.jp/sanguudo/ctf/>

